［第６４９回　大阪放送番組審議会議事録］

１．開　催　日　時　　令和４年７月２１日（木）　午後２時00分～3時00分

２．開　催　場　所　　大阪放送　大会議室

３．委 員 の 出 欠　　委員の総数　　６名

出席の総数　　６名

出席委員の氏名　　成　瀬　國　晴　　河　内　厚　郎
たつみ　都　志　　鎌　田　雅　子
上　林　寛　和　　徳　永　潔

放送事業者側出席者の氏名
吉　田　禎　宏　　赤　松　加枝子
原　田　年　晴

４．　議　　題

１）　番組審議　『原田年晴旅行公社です　夏だ！祭りだ！秋田県』

２）　その他

５．議　事　の　概　要

議題１）　『原田年晴旅行公社です　夏だ！祭りだ！秋田県』について、番組の企画意図と内容を説明し、番組を聴取した後、意見を聞いた。

社　側　　国内旅行取扱業務主任資格を所有する原田年晴アナウンサーが、まるでリスナーと一緒に旅をするように全国各地のご当地情報を紹介する旅番組です。今回は北東北三県大阪合同事務所の提供で秋田県の特別番組として放送しました。舞台は秋田県南部。今年の夏に２年ぶりに開催が決定した西馬音内盆踊り、竿燈、大曲の花火などを中心に事前取材を実施。現地で収録した音を元に、関西の方が夏休みに旅行するなら‥‥と秋田の奥深さを味わえる１泊２日旅行をイメージして構成しています。

＜各委員のご意見＞

委　員　　コロナ禍で中々旅ができない今の時期に必要な番組。小安峡の所は一緒に旅に行っている気分になり、楽しく聞く事ができた。できれば資料館などではなく、観光名所を旅して欲しかった。また、秋田県に行ったことが無いので、秋田県がどういう所なのか、初めに説明が欲しかった。関西人でそういう人は多いと思う。とはいえ、原田アナが感じたことや見たものを細かくリスナーに伝えようとする姿勢は素晴らしかったし、今後も原田アナの旅番組を楽しみにしている。

委　員　　私は秋田県に行ったことが無いので、どういう所なのか想像しながら聴いた。聴き終えた後、秋田に行ってみたいと思ったので、狙い通りの番組になっているのではないかと感じた。圧巻だったのは小安峡。原田さんの実況を聞いて、一度見てみたいと強く感じた。一方で残念だったなと感じた個所は、音声メディアであるラジオの特性を活かして花火や竿灯まつり等の音声を流すなど、祭りの情景が浮かぶような工夫が無かったこと。秋田という土地の魅力が良く伝わった、さすが原田アナウンサーだな、という楽しい３０分間だった。

委　員　　原田アナウンサーのお声を久しぶりに聴いて、昔はウキウキ声トーンだ

ったが、声が落ち着いて、大人になられていた。今回の番組に関しては、ウキウキのテンションでもいいのかなと思った。竿灯は大きな提灯が沢山ぶら下がり、それを持ち上げる、視覚的な祭りなので、ラジオで取り扱うのは少し難しい印象を受けた。稲庭うどんはうどんをズルズルっとすする音だけで美味しそうに感じた。

委　員　　秋田県は魅力が満載な所なのだと感じた。原田さんの話している所は凄く明確で頭に入ってきたが、ゲストの話は一度聞いただけでは分からなかった。花火が日常に根付いている、という話の背景に花火の音があればリアルさが増すような気がした。湯沢氏の小安峡は温泉や湯けむりの感じがすごくリアルだった。ぜひ紅葉がきれいな秋に秋田へ訪れてみたい。

委　員　　原田アナの関西弁も相まって、良いくさみが出ていた。知らない情報ばかりで、秋田県はネタが豊富。特に花火が秋田県民の生活に浸透しているのが面白かった。東北のしっとり感・癒しの感じが良く伝わった。

委　員　　旅というのは非日常。楽しいけれど、今はコロナ禍で行く事ができない。その非日常をいかに伝えられるかが旅番組の使命。情景を事細かに伝え、旅に行きたい！と思わせるようリスナーの想像力を掻き立たせないといけない。原田アナウンサーはベテランなのでそれが上手い。別世界に連れて行ってくれるような表現が原田さんらしく、彼が長い事やってきたことの真骨頂だと思う。番組の最後のコメントで「秋田県人のやさしさに触れて欲しい」と言っていたのは、実際に秋田に訪れて色々な人と話をした原田さんの実感がこもったコメントで非常に良かった。

社　側　　貴重なご意見、ありがとうございました。

以上